

# 概要報告

|      |              |
|------|--------------|
| 実施期日 | 7月28日(火)【午後】 |
| 部会名  | 小学校 体育部会     |

テーマ 『踊る楽しさを全員で味わえる表現運動をめざして  
～ICTを活用した学習活動の工夫～』

## 提案概要

○実践に向けて

準備段階として、ダンスの講習会などにも参加して、教師自身の技術力の向上を図った。

○実践概要

- ・ 教師自ら体を動かし、楽しみながら子どもたちと一緒に踊るようにした。
- ・ 基本的なリズムの取り方や体の使い方、簡単なステップを教えた。
- ・ 教師自らがオリジナルの練習用DVDを作成し、休み時間や自宅で、子どもたちが主体的、かつ自分のペースで練習できるようにした。
- ・ 個々の技術のみならず、「ペア」や「集団」で踊る楽しさを体感させるため、様々な場を設定した。
- ・ グループでの創作活動では、ICT（タブレット）を活用した。
- ・ 学習のまとめでは、クラス→学年→全校と発表の場を広げていった。

○成果と課題

- ・ リズムの取り方や簡単なステップを覚えることで、自信をつけることができた。
- ・ 自信がつき、「恥ずかしさ」を忘れて、体で大きく表現できるようになった。
- ・ ICTを活用したことで、自分たちの動きを客観的にとらえることができ、創作活動に生かすことができた。
- ・ お互いの創作ダンスを見合うことで、それぞれの工夫を知るとともに、楽しむことができた。
- ・ 「友だちのよい動きを自分たちのダンスに取り入れる」という目標には難しさを感じるグループがあった。
- ・ 発表時のタブレットの利用については十分な効果が得られず、ICTの活用場面について課題が残った。

## 質疑概要

Q1. 授業で行われたダンスの内容は中学校の内容だと思うが、あえてそれを取り入れたのは先生にどのような思いがあったからなのか。

A. 中学校1・2年生ではダンスが必修となるが、何も知らずに中学へ上がると子どもたちがかなり苦労していると聞いている。また、研修などで一緒になった中学校の先生からも小学校からダンスを学習させておいてほしいと言われていた。各種の基本的な技はすぐにはできないので、中学校への「つながり」が必要だと感じ、今回の授業を行った。

Q2. アンケートを授業の前後で取られているが、子どもたちにはどのような変容が見られたか。

A. 単元の前後で同じアンケートを行いたかったが、子どもたちがどのように感じていたのかを言葉で表現してもらいたかったので、授業後は作文を書かせた。したがって、数値では比較はできないが、子どもたちの表現運動に対する前向きな気持ちの変化が見られたと思う。

Q3. 先生のダンスに関する知識や情報はどこから得たのか。

A. 文部科学省から出ているDVDを参考にした。また、インターネットから情報を得たり、個人的にダンスをやっているのので、そこから情報を得たりしている。JDACという文部科学省が後援しているダンスの講習会にも参加して勉強した。

## 研究協議概要

### ○ICTの活用実践と、その学習効果について

- ・ ICTの活用は自分たちで改善点を見つけ自力解決につながる。
- ・ その場で確認できたり、みんなで見合えるため、とても効果的。
- ・ 撮影に集中するあまり、周りに気が回らなくなり、安全面が気になる。
- ・ 機器が使いにくいので、子どもが使う前提の改善を期待したい。
- ・ 機器の整備などの問題がある。また、どのクラスが使っているかなど、校内でのルール作りも必要。
- ・ ICTはどうしても手間がかかる。しかし使わないと慣れない。
- ・ 陸上運動、器械運動、ボール投げなど様々な運動で効果的に使える。
- ・ ICTを活用することで、やる気の促進にもつながるのではないか。

### ○各学校での「表現運動」の取り組みについて

- ・ 運動会のダンスやソーラン、組体操などを表現運動に充てていることが多いので時数的に厳しい。
- ・ 今回の授業のように、子どもたちが作り上げたものを運動会で発表する形も可能ではないか。
- ・ クラス数が多いと体育館の使用に制限もあり、他の領域メインの計画になってしまう。
- ・ 正しい踊り方を学ぶのか、それとも音楽に合わせてなんとなく楽しく体を動かすのかよくわからない。
- ・ 運動会だけの表現運動でよいのかという危機感を持っている先生も多く、年間計画にどのように取り入れていくのが課題。

### ○その他

- ・ 走り高跳びで子ども同士で見合う授業を目指したことがあるが、子どもたちが動きながら見合うというのは難しいと感じたので、ICTを利用するというのは効果があると考え。自分たちの動きを客観的に画面で見られるというのは良い。一方で、子どもたちにとっては使いにくい面もあるので、手軽なものが与えられるようになると良い。それには環境整備が必要になる。
- ・ タブレットの持ち出しには不安がある。壊してしまったらと思うと、数を持ち出すことはできず、自分の場合は教師が持ち出して使うだけという形で利用した。運動を振り返るうえでタブレットの利用はとても良いと思う。そこで見たことを次の動きに生かせるのが良い。

## まとめ概要

- 子どもたちが夢中になっている姿を見るために、色々な仕掛けを授業に入れてほしい。ICTを利用したり、教師仲間の力を上手く使ったりして、子どもたちが喜ぶ授業づくりをしてほしい。
- 中学校へのつながりを意識した授業で素晴らしかった。
- 学習指導要領では、「心と体を一体としてとらえる」ことが重視されており、「表現運動・ダンス」は、個性を生かし、子どもたちの心と体をうまくつなげる特性のある領域として期待されている。
- 「表現運動」の領域は、「どのように指導して良いかわからない」といったように、少しハードルが高いと感じている先生も多いが、今回はそこに「チャレンジ」した授業だった。
- 先生自身がダンス教室へ通ったり、自作DVDを作ったり、「子どもたちのために」という熱意が、教師にとって何よりも大切なことである。
- 学習指導要領解説の表現運動の内容として、思考・判断に「自分やグループの課題解決に向けて、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。」とあるが、今回の実践ではICT、特にタブレットの活用があった。タブレットについてはまだ十分に配備されている状況ではないが、子ども同士が撮影し合い、課題解決に向けて学び合いを繰り返すことで、子ども自身が「できる」を実感し、さらに技能を高めようとする意欲が高まることが期待される。
- 先生方も指導に関して得意不得意な教科があると思うが、様々な取組を各学校で共有しながら、授業づくりを通して「チーム学校」目指してほしい。
- 適切な課題設定により、子どもが仲間との学び合いを通して、「できた」という喜びを感じて笑顔になっていくので、「授業を通して子どもを笑顔にする」ということを目指して、実践・研究を進めてほしい。